

8 第1章 なぜエンジニアにとって特許制度は重要なのか？

最近、国をあげて特許重視の政策を打ち出しています。2003年3月、内閣府には知的財産戦略本部^{注1-1}が組織され、首相がその長を務めています。そのせいもあってか、特許に関するニュースが日常的にメディアに取り上げられるようになりました。また、特許に関する講演会やセミナーも盛り上がりを見せています。特許について多くの人が関心を持つという意味で、こうした傾向はたいへん喜ばしいことです。また、「特許は、自分とは無縁の世界だ」と思っていた人たちも特許に興味を持ち始め、様々な立場の人が積極的に意見交換するようになりつつあります。

ただ、気がかりなこともあります。その一つは、技術者の声あまり聞こえてこないことです。確かに、多くの人々が「特許は重要」というメッセージを発しています。しかし、いったい「誰」にとって重要なのでしょうか。「日本が知財立国を目指すため」とか、「特許を活用して企業経営を行う」という意見は、国家あるいは企業レベルでは正しいと思います。また、国家戦略を担う人々や企業の経営者にとっては、特許の重要性を理解する際にしっくりくるメッセージなのかもしれません^{注1-2}。

一方、エンジニアの方はこうしたメッセージを冷ややかに受け止めているのではないかと思います。研究開発に没頭してきたエンジニアは新しい研究開発に追われているのが実情で、「知財立国」とか「特許戦略」と言われてもピンとこないというのが本音ではないのでしょうか(図1-1)。

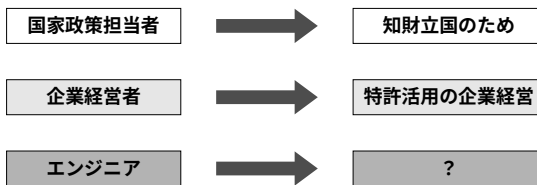


図1-1 「特許制度が重要」という意味

「特許制度が重要」という考え方は、立場によって異なる。エンジニアは自分の視点で「特許が大事」という意味をしっかりと理解することが重要である。

注1-1：内閣府知的財産戦略本部のホームページのURLは<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/>

注1-2：ただし例外もある。例えば、米国University of California, Santa Barbara校教授である中村修二氏の特許権の相当の対価を巡る訴訟では、同氏の言葉のはしばしに「発明者のための特許制度」というエンジニアの立場からの思いが感じ取れる。また、p.16のコラム「エンジニアにとっての中村裁判(青色発光ダイオード事件)の意義とは？」を参照のこと。

●主役はエンジニアのあなた

この現状は、特許制度がエンジニアのための制度であることを自覚していないことに起因しています。まず、誰が特許を生み出しているかを考えてみてください。国家ではないことは明らかですし、(通常は)経営者でもありません。誰もが「重要だ」と言っている特許を生み出すのは、ほとんどの場合、エンジニアなのです。

つまり、特許制度の主役はエンジニアであるみなさんです。いくら周りが「特許が重要」と盛り上がったところで、その主役となる人たちが特許の本質的な重要性を理解せずにいたのでは、特許制度は一過性のブームで終わり、表面的な変化にとどまってしまう。逆に、エンジニアの方々がしっかりと特許制度の本質を理解していれば、制度が備えている本来の機能が活性化され、末永くしかも効率的に機能するのではないのでしょうか。

● まずは特許に対する「先入観」を捨てる

本書の最大の目的は、特許制度の主役であるエンジニアのみなさんに、特許制度について本質的な部分を理解してもらうことにあります。そのため、みなさんが持っている特許についての「先入観」や「既成概念」を一度捨ててほしいと思います。

残念ながら、エンジニアの方の特許に対するイメージはあまり良いものではありません。「手続きが複雑」、「面倒くさい」、「時間がかかる」といったネガティブなイメージは、特許制度の本質を理解するうえで大きな妨げになります。これらのイメージも特許制度のある一面を捕らえているので、すべてを否定するわけではありませんが、先入観によって本質を見失う危険性のほうが憂慮すべき事項です。

特許制度についてある程度知識のある方も、既存の知識をうのみにせず、本書の見解と比較しながら、もう一度、特許制度の本質を見直してみてください。きっと、これまで気が付かなかった特許制度のメリットを少なくとも一つは発見できると思います。「なるほど、特許制度はこんな利用方法があったのか」とうなずいていただければ、筆者も本望です。

それでは、もっとも重要な観点である「エンジニアにとっての特許制度の意味」から考えてみることにしましょう(図1-2)。



1-1 エンジニアの夢をかなえる制度

エンジニアにとって特許制度が重要である第1の理由は、たとえ一人のエンジニアであっても大発明をすれば成功者としてみんなから評価され、世の中を動かすほどのインパクト